

北九州市長 武内 和久 様
都市整備局長 持山 泰生 様

令和7年7月17日

市民とともに北九州市議会議員団
自由民主党・無所属の会議員団
日本共産党北九州市会議員団

皿倉山ロングスライダー事故の原因究明と根本的な対策を求める申し入れ書

皿倉山ロングスライダーにおいて、令和7年4月25日の運用開始から約1ヶ月間で、10名ものけが人が発生し、6月3日に利用停止となった件について、以下の点を強く申し入れます。短期間で、これだけのけが人が発生するのは、遊具としての安全性に問題がある可能性が高く、市民の安全を脅かす深刻な問題と認識しています。

1. 原因究明と根本的な安全対策について

市は「遊具自体の安全基準に問題はない」「利用方法の周知不足が主因」と説明されていますが、設置当日から市職員が骨折する事故があったにもかかわらず、その後も事故が頻発したことは、単なる周知不足では説明が付きません。また、市は、滑り台サポーターを配置し、年齢制限を設けることで安全確保を図るとしていますが、これは夏休み期間の子どもの利用を可能にするための一時的な対策に過ぎません。

北九州市の観光スポットの目玉施設としてロングスライダーを設置するというのであれば、大人も子供も安全に利用できるものを設置すべきでした。

今回の事故発生から対応までの経過、専門家による検証結果、遊具メーカーの見解などを明確にしたうえで、今後の改善計画を策定することを求めます。

2. 情報公開の不足について

一連の事故について、市民や議会への報告が遅れ、事故の詳細や検証結果が十分に公開されていません。7月10日に開催された所管の建設建築委員会においても、原因究明については「調査中」と報告したにもかかわらず、同日同時刻の市長会見において、年齢制限を設けた上で、7月19日より子どもの利用を再開すると発表しています。

市民の安全に関わる重要な情報は、市民及び議会に迅速かつ透明性をもって公開されるべきです。

よって、7月19日の利用再開は市民の安全を最優先に考え、滑り台サポーターの配置など一時的な対策ではなく、安全確保に向けた抜本的な取り組みと、十分な検証に基づく慎重な判断を強く要望します。

以 上